

マラキの預言

マラキは、捕囚から帰った人々のために遣わされた預言者で、彼らの霊的熱心が冷えきった時代に活躍しました。ネヘミヤとエズラが、礼拝儀式や政治上必要な改革を手がけたのに対し、マラキは、人々に霊的問題を真剣に考えるよう教えました。マラキが論じた根本的な問題は、祭司の墮落、神殿が軽視されること、家庭における個人的な罪などでした。本書は、来たるべきメシヤとその先ぶれのバプテスマのヨハネ（ここではエリヤと言われる）についての預言で終わっています。こうして旧約聖書は、神様が新約聖書でなされることを待望しつつ終わるのです。

—

1 これは、神様が預言者マラキをとおして、イスラエルにお与えになったお告げです。

2 3 「おまえたちをととても愛している」と、神様は言われます。

ところが、あなたがたは「ほんとうですか？ いつ、そうしてくださいましたか」と問い返します。

神様のお答えはこうです。「おまえたちの先祖ヤコブを愛することによって、おまえたちに対する愛を示したのだ。そうする理由など、さらさらなかったのに。わたしは、ヤコブの兄エサウを退け、彼が相続する山地を荒廃させ、山犬しか住まない荒れ地とした。

4 エサウの子孫が、『その廃墟を建て直そう』と言うなら、わたしはこう言う。『やりたいたらやってみろ。だが、わたしは再び廃墟にするぞ。』彼らの国は邪悪の地と名づけられ、住民も神に見放された者たちと呼ばれるからだ。」

5 さあ、イスラエルよ、目を上げて、神様が世界中でなさっていることを見なさい。その時、あなたがたはこう言うようになります。「ほんとうに、神様の大きい御力は、イスラエルの国境を越えて全地に及んでいる。」

6 「子は父を敬い、召使は主人を敬うものだ。わたしはおまえたちの父であり、また主人なのに、おまえたちはわたしを少しも敬っていない。ああ、祭司たちよ、おまえたちはわたしの名をさげすんでいる。」

「だれが？ 私たちが、ですって？ いつ、神様の御名をさげすんだというのですか。」

7 「わたしの祭壇に汚れたいけにえをささげる時だ。」

「汚れたいけにえですって？ いつ、そんなことをしましたか。」

「いつも、おまえたちは言っている。『わざわざ高価なものを神様にささげる必要はない。8 祭壇にささげるのは、びっこの動物でたくさんだ。そうそう、病気のだって、盲のだってかまわない。』これが悪いことではない、と言いはるのか。総督に、そんな贈り物をしてみろ。喜んで受け取るか、試してみるがいい。

9 おまえたちは、『神様は私たちをあわれんでくださる。神様は恵み深い』と口ぐせのように言う。だが、そんな贈り物を持って来るおまえたちに、どうして好意を示せよう。

10 ああ、神殿のとびらを閉ざして、こんないけにえを断固拒否する祭司が、一人でもい

たらいいのだが。 もう、おまえたちには我慢がならん。 そんなささげ物など欲しくもない」と、天の軍勢の主は言われます。

1 1「ところで、わたしの名は外国人の間で、朝から晩まであがめられるようになる。 世界中どこでも、人々はわたしの名をあがめて、かぐわしい香りと、きよいささげ物をささげるようになる。 国々の間で、わたしの名が大いに高められるからだ。 1 2それなのに、おまえたちときたらどうだ。 祭壇など気にしなくていい、と言ったり、ささげる動物は安上がり、傷ついたものでかまわない、と指示したりして、わたしの祭壇を汚している」と、天の軍勢の主はお語りになります。

1 3『ああ、神様に仕え、神様が望んでおられることをするのは、なんとわずらわしいことだろう』と、おまえたちは言う。 そして、わたしが守るようにと与えた規則など、鼻であしらっている。 考えてもみろ。 盗んだ動物や、びっこや病気のものを、神へのささげ物としているのだぞ。 わたしが、そんなささげ物を受け入れると思うのか」と、神様は詰問なさいます。 1 4「神へのいけにえとして、群れの中から上等の雄羊をささげると約束しながら、傷のあるものと取り替える者は、のろわれる。 わたしは偉大な王であり、わたしの名は外国人の間で、大いに尊ばれているからだ」と、天の軍勢の主はお語りになります。

二

1 2祭司たちよ、天の軍勢の主の警告を聞きなさい。

「おまえたちが生き方を変えず、わたしの名をあがめないなら、恐ろしい刑罰を下す。 わたしが与えようとしている祝福に代えて、のろいを与える。 実際、もうすでに、おまえたちをのろっているのだ。 わたしにとって何よりも大事なことを、いい加減に扱ったからだ。

3いいか。 わたしはおまえたちの子供を責め、わたしにささげた動物の糞をおまえたちの顔にぶちまけ、まるで糞のようにおまえたちを投げ捨てよう。 4その時、やっとおまえたちは、神が先祖レビに与えた法律に、おまえたちを引き戻そうと警告したのが、このわたしであったことを知る」と、天の軍勢の主がお語りになります。 5「この法律の目的は、それを守る人にいのちと平安を与え、わたしへの尊敬と畏怖の念を示す機会とすることだ。 6レビは、わたしから学んだすべての真理を人々に伝えた。 うそをついたり、だましたりしなかった。 誠実な正しい生活をして、わたしと共に歩み、多くの人を罪の生活から立ち返らせた。

7祭司のくちびるは、人々が神のおきてを学べるように、あふれ出るように神のことを語るべきだ。 祭司は天の軍勢の主の使者であり、人々は導きを求めて彼らのもとへ来るべきなのだ。 8ところがどうか。 おまえたちは神の道から離れてしまった。 そればかりか、多くの人に罪を犯させている。 レビとの契約をねじ曲げ、見せかけだけのものにしてしまった。 9だから、おまえたちを、すべての人の軽べつの的にする。 わたしに従わず、平気で、自分たちの好きなように法律を変えたからだ」と、天の軍勢の主はお語り

りになります。

10 私たちは同じ父アブラハムの子孫であり、同じ神様によって創造された者です。 それなのに、ご先祖の契約を破り、互いに裏切り合っています。 11 ユダでも、イスラエルでも、エルサレムの中でさえも、反逆が行なわれています。 ユダの人々が、偶像を拝む外国の女と結婚して、神様の愛された聖なる神殿を汚したからです。 12 こんなことをする者は、祭司であっても、信徒であっても、神様が一人残らず契約から除外してくださるようになります。

13 ところが、あなたがたは涙で祭壇をぬらしています。 もう神様があなたがたのささげ物に目をくれないので、どんな祝福も受けられないからです。 14 「なぜ、神様は私たちを見捨ててしまわれたのか」と、あなたがたは泣き叫んでいます。 そのわけを教えましょう。 長年忠実に連れ添った妻、いつまでも離れないと約束をかわした伴侶を離縁するという、あなたの裏切り行為を、神様が見ておられたからです。 15 神様が、あなたを妻と一体にさせてくださったのです。 神様の深いご計画のうちに結婚した時、神様の前で、二人は一体となったのです。 神様は何を望んでおられたのでしょうか。 あなたがたの結合から生まれ出る信仰の子供たちをです。 ですから、情欲に気をつけなさい。若い時の妻に誠意を尽くしなさい。

16 イスラエルの神様である主は離婚を憎み、妻を離縁するような無情な男はきらいだ、と言われるからです。 ですから、情欲を抑えなさい。 妻を離縁してはなりません。

17 あなたがたは、自分のことばで神様をわずらわしたのです。

「神様をわずらわしたですって？ どうやって？」 さらにそう言って、わざと驚かせてみせます。

あなたがたはぬけぬけと、「悪を行なうこともいい。 それも神様を喜ばせているのだ」と言っているではないですか。 また、「神様は私たちを罰しない。 そんなことを、神様は気にしておられない」とうそぶいています。

三

1 「聞け。 わたしはわたしの前に使者を遣わして、道を備えさせる。 それから、おまえたちが探し求めている人が、突如として、神殿に来る。 神が約束したその使者は、すばらしい喜びをもたらす。 そうだ、その人は必ず来る」と、天の軍勢の主はお語りになります。 2 「その人が現われる時、だれが生きておれよう。 彼が来ることに、だれが耐え得よう。 彼は、貴金属を精錬する燃えさかる火のようであり、どす黒く汚れた上衣を、真っ白にすることができるからだ。 3 銀を精錬する人のように、腰をすえて、不純物が燃え尽きてしまうまで、じっと見守っている。 きよい心で仕えることができるように、神に仕えるレビの子孫をきよめ、精錬された金や銀のように純粋にする。 4 それからもう一度、わたしは以前のように、ユダとエルサレムの住民が携えて来るささげ物を喜んで受ける。 5 その時、わたしのさばきは素早く、確実に行なわれる。 罪のない人をだます悪者、不品行な者、うそつき、雇い人を不当な賃金で酷使する者、未亡人や孤児を苦し

める者、うまいことを言って外国人をだます者、わたしを恐れかしこまない者を、わたしは直ちに排除する」と、天の軍勢の主はお語りになります。 6「神であるわたしは、決して変わることがない。 それだからこそ、おまえたちはとことんまで滅ぼされてはいない。 [わたしのあわれみは永遠に変わらないからだ。]

7おまえたちは初めからわたしの法律を軽んじてきたが、ついにわたしのもとへ帰るようになる」と、天の軍勢の主はお語りになります。 「さあ、帰って来い。 そうすれば赦してやる。

ところがおまえたちは、『私たちは背いたことなんかありません』と言う。

8人は神のものを盗めるだろうか。 とんでもない。 ところがおまえたちは、わたしのものを盗んでいる。

『何のことですか。 いつ、神様のものを盗んだりしましたか。』

わたしに納めるべき収入の十分の一と、ささげ物を盗んでいるではないか。 9だから、神の恐ろしいのろいが、おまえたちを包んでいるのだ。 全国民がわたしのものを盗んでいるからだ。 10収入の十分の一をすべて倉に携えて来い。 そうすれば、神殿には食べ物が十分あるようになる。 そうすれば、わたしは天の窓を開いて、すばらしい祝福をあふれるばかりに注ごう。

試してみよ。 わたしに、そのことを証明させてほしい。 11わたしが害虫や病害から守るので、収穫は多くなる。 ぶどうが熟す前にだめになることもない」と、天の軍勢の主はお語りになります。 12「すべての国民は、おまえたちを祝福された者と言う。 イスラエルが幸福に満ちた地となるからだ。 以上はわたしの約束だ。

13わたしに対するおまえたちの態度は、なんと高慢で横柄なのだ」と、神様は言われます。

「ところが、あなたがたは答えます。 『何のことですか。 言ってはならないことでも言いましたか。』

14 15聞きなさい。 あなたがたはこう言ったのです。 『神様を礼拝したり、神様に従うなんて馬鹿げている。 神様のおきてを守ったり、罪を悲しんだりして、何の役に立つのか。 もう今からは、「高ぶる者は幸いだ」と言いはろう。 悪事を働く者が栄え、神様に罰せられるようなことをやってのけても、罰を免れて平気でいるからだ』と。」

16その時、神様を恐れかしこむ者たちは、互いに神様のことを語り合っていました。 神様は『記憶の書』を作成して、そのような者たちの名前を記録してくださったのです。

17天の軍勢の主はこうお語りになります。「わたしが自分の宝石を仕上げるその日に、彼らはわたしのものとなる。 人が、忠実に務めを果たす子を特別に扱うように、わたしも彼らを特別に扱おう。 18その時おまえたちは、善人と悪人とで、また、神に仕える者と仕えない者とで、神の取り扱いが全く違うことを知る。」

四

1天の軍勢の主はこう宣言なさいます。 「さあ、見るがいい。 かまどのように燃えな

がら、審判の日がくる。 高ぶる者、悪を行なう者はみな、わらのように燃えつき、木のように焼き払われる。 根までも全部だ。

2 だが、わたしの名を恐れかしこむおまえたちには、正義の太陽がのぼり、その翼がおまえたちをいやす。 そして、牧場に放された子牛のように自由にされ、喜びのあまり跳びはねる。 3 その時おまえたちは、灰を踏みつけるように、悪者どもを踏みつける。 4 ホレブ山（シナイ山）で、わたしのしもべモーセによって、わたしが全イスラエルに与えた法律を守れ。 そのことを忘れるな。

5 見よ。 神の大いなる恐るべき審判の日がくる前に、エリヤのような預言者を遣わす。

6 彼の宣教によって、父と子が再び結び合わされ、一つ心、一つ思いとされる。 それというのも、悔い改めないなら、わたしが来てこの地を完全に破壊してしまうことを、彼らが知るからだ。」

■